

火焰型土器の PR 活動及び火焰型土器の 2020年東京オリンピック・パラリンピ ックの聖火台モデル採用に向けた支援活動

発表者：新潟産業大学文化経済学科4年 高橋 那奈

指導教員：経済学部金 光林教授

(1) 活動の背景

信濃川流域から約5000年前の火焰型土器が多数出土し、国宝（十日町市の笹山遺跡）、国指定重要文化財（長岡市の馬高遺跡・津南町の堂平遺跡）に指定され、日本遺産に指定されています。

2013年9月に2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まった直後から、新潟県内で国宝の火焰型土器をオリンピック・パラリンピックの聖火台のモデルにという声上がり、信濃川流域の市町村を中心にその実現に向けて国の関連機関への要望活動が始まりました。

(2) 活動の目的

日本の優れた歴史文化遺産である火焰型土器を積極的にPRしたいです。

火焰型土器の2020年東京オリンピックの聖火台モデル採用に向けた支援活動を行い、火焰型土器と縄文文化が世界に向けて発信できるようにしたいです。

(3) 課題認識

人々に消費されやすいクッキーセットのパッケージを通して、縄文少年と少女「おうくん」「かえんちゃん」という人物を創作し、火焰型土器を物語化し、PRに努めました。

続いて、「信濃川流域の火焰型土器ガイドマップ」を制作し、物語性とビジュアルな手法で火焰型土器の良さと東京オリンピック聖火台採用の必要性を訴えました。

(4) 活動内容 (1)

2014年十日町ビジネスコンテストへの参加がきっかけとなり、「縄文クッキー おうくんとかえんちゃん」の商品企画し、株式会社ブルボン、株式会社最上屋、十日町社会福祉会なごみの家、十日町市のハーブティーの生産者宮沢家の協力を得て、2015年5月に商品化を実現しました。

この商品は新潟県内と東京で販売し、商品を通して、火焰型土器をPRしました。

この商品のパッケージは金ゼミの学生たちがデザインし、王冠型縄文土器と火焰型縄文土器をイメージする「おうくん」「かえんちゃん」のイメージキャラクターも入れました。パッケージの側面には「おうくんとかえんちゃんの enjoy story」という6コマ漫画や「縄文土器の美を世界に」というメッセージを入れました。

この商品の特徴と意義は、かつて長岡で生産されていた火焰型サブレの復活にあり、火焰型土器をPRし、地域連携 win-win 効果を期待し、社会福祉事業を支援することにあります。

5. 活動内容（2）

2019年春に金ゼミは私費で「信濃川流域火焰型土器ガイドマップ」3000部を制作し、東京オリンピック関連機関、東京都、内閣府・文部科学省・文化庁・スポーツ庁など政府各部門、及び複数の国会議員、オリンピック関連大手企業などに発送し、新潟県内の観光施設・縄文関連施設、役所などに配布し、2020年東京オリンピックの聖火台モデル採用に向けた支援活動を実施してきました。

この「信濃川流域火焰型土器ガイドマップ」は表に火焰型土器からオリンピックの聖火が燃えるイメージイラストを描き、その下に火焰型土器の解説文を入れています。また両サイドには、縄文クッキーの商品企画の際に創作した縄文少年少女のイメージキャラクターを入れています。

裏には、「おうくんとかえんちゃんのFANTASY STORY」の5コマ漫画を入れて、2020年東京オリンピックにおいて、火焰型土器を聖火台のモデルとして採用すべき必要性を訴えています。

この裏ページの両サイドには「国宝火焰型土器をオリンピックの聖火台！」に、「縄文の造形美を世界にひろく伝えよう！」というメッセージを入れています。

ガイドマップの中の右には、上に信濃川流域の六つの市町村の代表的な火焰型土器イラストマップを入れ、下には信濃川火焰街道連携協議会の縄文関連施設の紹介を入れています。

ガイドマップの中の左には、上に信濃川流域の縄文文化の魅力を伝えるメッセージを入れ、下にはマイカー・レンタカー・タクシーで巡る信濃川流域火焰型土器モデル

コース」を入れています。

金ゼミは2020年東京オリンピック開幕式・閉幕式の統括担当者野村萬齋さんへガイドマップとともにPRメッセージを送りました。ここにその一部内容を紹介します。

「火焰型土器は新潟県あるいは信濃川流域に位置する市町村にとって大切な文化財であるだけではなく、日本を代表する歴史遺産であり、日本文化の宝であります。来年に迫ったオリンピック・パラリンピックにおいて日本人の生活文化の源流でもあります縄文文化が世界に発信されることは日本国民にとりまして大きな喜びとなることでありましょう。

このたびはその火焰型土器ガイドマップを手にとってご覧いただき、私たちのこの切なる希望を実現していただきますれば望外の喜びであります。」

金ゼミは2019年6月に公益財団法人内田エネルギー科学振興財団より助成を得て「信濃川流域火焰型土器ガイドマップ」を一万部増刷し、新潟県内外で火焰型土器のPR活動を広く実施しています。

（6）今後の課題

「信濃川流域火焰土器ガイドマップ」の新潟県内外の観光施設・縄文関連施設への配布を続けたいです。

信濃川流域の火焰型土器の観光資源としての活用方法を地域の縄文関連施設、行政、観光会社などと連携し、模索したいです。例えば、信濃川流域火焰型土器巡りツアーの実現に向けた環境作りなどです。